

憲問第十四

子曰、貧而無怨難、
富而無驕易。

子曰わく、貧しくして怨むこと無きは難く、
富て驕ること無きは易し。

(14-353)

<子曰わく、貧しくして怨むこと無きは難く>

Q:「子曰わく、貧しくして怨むこと無きは難く」とは何ですか。

A: (1)「孔子が言った。貧乏な生活の中で、何をも怨むことのない人物になることは、難しいことだ」の意。

(2)「貧乏で生活に困ると、とかく人を怨みがちであるが、貧困でも天命に安んじて怨みがましいことのないのは極めてむずかしい」の意。

(3)「怨」とは、人をうらみ、天を怨んで自分というものに安んじない。

<富て驕ること無きは易し>

Q:「富て驕ること無きは易し」とは何ですか。

A: (1)「それに比べれば、裕福でありながら、おごりたかぶるような人物にはならないようにすることは、たやすいことだろう」の意。

(2)「それに比べると、富んでもおこらないということは少しわきまえのある者なら出来ることで、やさしいことだ。しかし、このやさしいことさえ、なかなかできないのが凡人の悲しさだ」の意。

(3)「驕」とは、おごり高ぶってほしいままに行いをすること。

2011年6月24日林明夫記